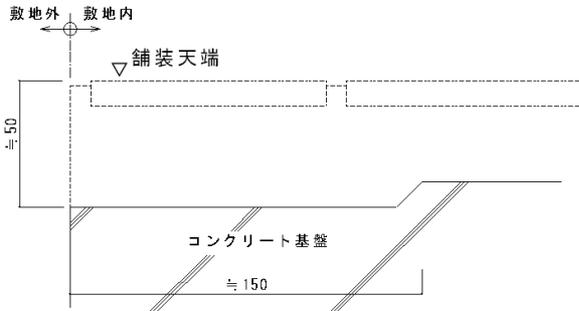


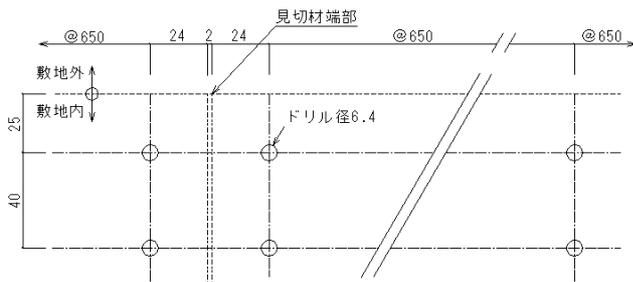
地先境界用 タイル舗装用見切材 IS-K 施工要領書

施工手順

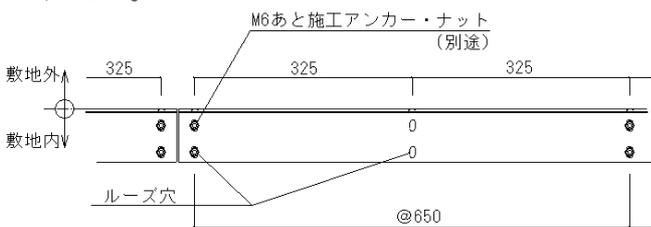
- ① タイル舗装等のコンクリート基盤を打設する際、見切材設置部分のコンクリート基盤を舗装天端から50mm程度下げて仕上げます。



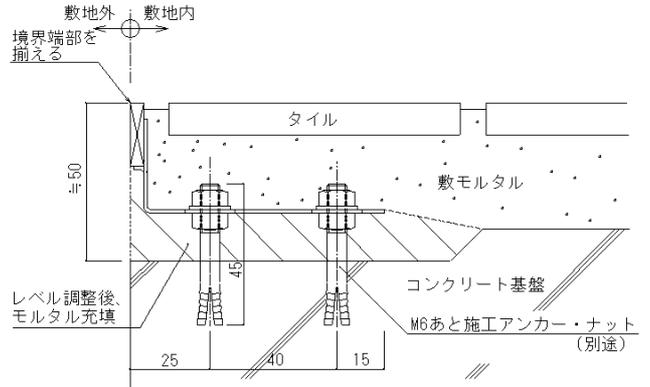
- ② コンクリート基盤硬化後、あと施工アンカー設置のため、ハンマードリル等で、ドリル径 6.4 深さ 20mm 程度の穴を開けます(下記平面図参照)。見切材の突合せ部は1本につき2mmの伸縮余裕をとりま。



あと施工アンカーは端部を除き@650で施工してください。



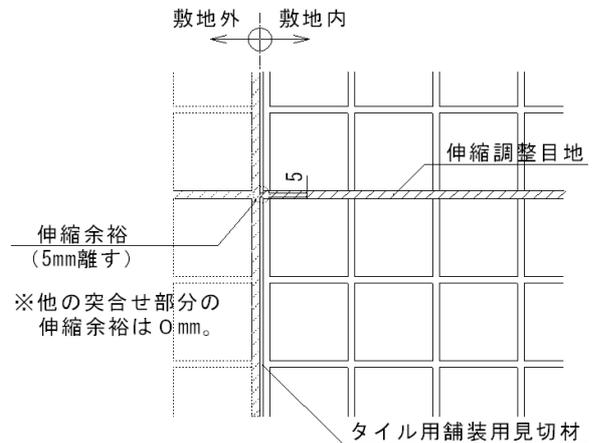
- ③ あと施工アンカーを打込みます(あと施工アンカーは芯棒打込み式おねじタイプ、M6×45mm・ねじ部長さ15mm推奨)。あと施工アンカー・ナットは標準で見切材1本当たり8組使用します。
- ④ アンカーねじ部へナットを取り付け、その上に見切材を、ルーズ穴を介して載せます。ナットをまわして見切材のレベル調整を行います。



- ⑤ レベル調整が済みましたら、見切材の上側をさらにナットで固定します。
- ⑥ 見切材の下にモルタルを充填します。フラットバーの下は特に念入りに入れてください。

施工上の注意

- 見切材が伸縮調整目地と直交する場合、交わる箇所へまとめて伸縮余裕を設けます。(伸縮調整目地が5m間隔の時、伸縮余裕を5mmとします。)



- アスファルトなど施工時に高温となる舗装材は見切材に接触させないでください。タイル舗装や自然石舗装側のひび割れの原因となります。
- 見切材は高速カッターなどの工具で切断できますが、端尺の切断長さは、ルーズ穴を1スパン(@325)以上含む寸法としてください。1スパンより短い場合、レベル調整が出来なくなり、またフラットバーが本体から外れる恐れがあります。